marketpress.jp

証券市場新聞

1　第191号

2019
8/12
月曜日

発行元　株式会社 証券市場新聞社
〒542-0081　大阪市中央区南船場3-7-27 NLC心斎橋ビル6C
TEL 06-6105-1904　FAX 06-7635-7861
marketpress.jp

日経平均株価
２万０６８４円８２銭
▲９１円４７銭（前日比）
ＴＯＰＩＸ
１５０３．８４
▲５．１８（前日比）

世界に羽たくeスポーツ

五輪採用で関連企業に期待

世界的に盛り上がりを見せるeスポーツが国内でも急速に認知度を高めている。eスポーツとはエレクトロニック・スポーツの略称で、オンライン対戦のスポーツゲームによる競技大会のこと。世界の市場規模は２１０９年に１０億ドル、日本円にして１０００円億円に達すると言われ、東京の次となるパリ五輪では競技種目に採用されることが取り沙汰されている。ゲーム大国である日本のソフトメーカーの貢献度も高く、個別で株価も強調展開となっている。

格闘ゲームではカプコン

eスポーツは既に世界的に定着しており、２０１７年に米国で開催の「The International 2017」では賞金総額は日本円換算で２７億円を突破。その翌年の２０１８年8月に開催されたジャカルタ・アジア大会ではエキシビション競技としてeスポーツが採用され、パリ五輪でも少なくてもエキシビションとして採用されることが取り沙汰されている。テレビに接続するゲーム専用機で世界の歴史に刻んできた日本企業の関りも深く、２０１８年に開催されたアジア大会では**コナミホールディングス**（９７６６）のサッカーゲーム「ウイニングイレブン２０１８」が採用。

カプコン社内eスポーツの決勝戦

格闘ゲームでは**カプコン**（９６９７）は１９９２年に国技館で開催された「ストリートファイター」の全国大会からeスポーツに関与。今年7月１２日には「ストリートファイターＶ ＡＥ」を使用した社内eスポーツ大会「カプコンカンパニー カップ２０１９」を開催し、辻本春弘代表取締役社長最高執行責任者（ＣＯＯ）は「年齢や障害に関係なく誰でも参加できるeスポーツがオリンピックの理念にも合致している」として「将来的にはサッカーのＪリーグのような地域発展にも貢献したい」と意欲を見せた。カプコンは8月2日には全般暴落時に急騰し年初来高値を更新している。

日経平均日足チャート

今週の動意銘柄

アシックス一時S高

上方修正で増配と自社株買い

週明け5日、アシックス（7936）が一時ストップ高。19年12月期の連結経常利益予想を100億円から125億円（前期比42・6％増）に上方修正した。併せて、記念年配当を上乗せ、年間配当を24円から30円に引き上げ、発行済み株式数の4・76％に当たる900万株を上限に自社株買いを行うと発表した。

オプテクスG自社株買い

6日、オプテックスグループ（6914）が急反発。発行済み株数の2・17％にあたる80万株、10億円を上限に自社株買いを実施すると発表したことで押し目買いが優勢になった。同時に発表した19年12月期第2四半期累計の連結決算は、営業利益13億1500万円（前年同期比49・6％減）と大幅減益で着地したが、アク抜け感につながった。

CMK減額で一時S安

6日、日本シイエムケイ（6958）が一時ストップ安。20年3月期の業績予想について、通期連結売上高で940億円から870億円（前期比9・6％減）へ、営業利益で40億円（同46・9％減）へ下方修正した。車載向けが予想を下回り、通信関連機器、アミューズメント向けの販売が減少する。

船井電営業赤字に

6日、船井電機（6839）が大幅に3日続落。20年3月期の業績予想について、通期連結売上高で1080億円から850億円（前期1055億4900万円）へ、営業損益で4億円の黒字から30億円の赤字（同6億8200万円の黒字）へ下方修正した。液晶テレビなど販売単価下落、販売数量の落ち込みが響く。

神戸鋼は下方修正

5日、神戸製鋼所（5406）が3日続落、年初来高値を更新した。20年3月期の業績予想を通期連結売上高で1兆1000億円から9800億円（前期9582億3900万円）へ、営業利益で50億円から収支均衡（同231億3100万円）へ下方修正した。鉄鋼での製品構成の悪化やアルミ・銅において半導体・IT分野向け、海外の自動車向けの販売数量の減少、関係会社の設備トラブルなどで生産性悪化影響が見込まれる。

シスメクス未達警戒

5日、シスメックス（6869）が急落。20年3月期第1四半期の連結決算で営業利益12億7900万円（前年同期比18・4％減）大幅減益で着地したことで、計画未達成が警戒された。血液凝固検査試薬・検査機器の海外販売が伸び悩んだ

ヨコオ増額で新値

7日、ヨコオ（6800）が急伸、年初来高値を更新した。20年3月期の業績予想について、連結営業利益で36億5000万円から40億5000万円（前期比33・7％増）へ上方修正した。回路検査用コネクタと無線通信機器の大幅な増益見込みが寄与している。

正直じいさんの株で大判小判

海外に左右される展開継続

9日の東京市場は続伸です。前日のNY市場でダウが大幅に続伸、朝方発表された4～6月期GDPが実質年率換算で1・8％増と市場予想を上回ったこともフォローになり、買い優勢の展開でした。ファーウェイを巡る米報道を受け、電子部品株は売られましたが、主力株を中心におおむね堅調でした。今週は3連休明け後に国内ではお盆休みに突入することから薄商いの中、盛り上がりに欠ける展開が予想されます。イベント的には13日に米7月消費者物価、14日に中国小売売上高などの発表が控えており、海外要因に左右される展開が続きそうです。

推奨銘柄では日の最高値、カプコン（9697）も一段高に買われました。ただ、ホープ（6195）が連決算発表一巡後の物色の流れの変化に備えて、手持ち銘柄を絞り込んで、次なる戦略を練りたい考えです。

花咲 翁

JVCKWが急反発

1Q78％営業減益を好感

7日、**JVCケンウッド**（6632）が急反発。20年3月期の第1四半期決算は、連結売上高で735億9600万円（前年同期比1・4％増）、営業利益で17億7100万円（同77・9％増）と大幅な増益となったことが好感された。事業部化したDXビジネスの販売が大幅に伸長している。

タカラトミー67％減益

7日、**タカラトミー**（7867）が急落。20年3月期第1四半期決算は、連結営業利益で5億5500万円（前年同期比66・8％減）と大幅な減益となった。「ベイブレードバースト」の国内、韓国での販売減少や、海外子会社におけるキャラクター玩具の販売終了などが圧迫。為替差損を計上したことも影響している。

ジャストシス94％増益

8日、**ジャストシステム**（4686）がストップ高。19年3月期第1四半期の決算は、連結売上高94億5700万円（前年同期比40・9％増）、営業利益41億4000万円（同93・6％増）と大幅な増益となった。自治体などのICT環境の整備やパソコンの更新需要が拡大し、関連ソフトウエアの導入が順調に進んでいる。

マイクロニク値下りトップ

8日、**日本マイクロニクス**（6871）は急反落、東証全市場で値下がり率トップになった。19年9月期の連結業績予想を下方修正、売上高を295億円から277億円（前期比7・9％減）、経常利益を27億円から17億円（同50・6％減）に引き下げた。メモリ市況の急激な悪化でプローブカード需要が減退、収益悪化に伴い、期末一括配当を15円から10円（前期19円）へ引き下げた。

ホープ売上高3倍に

8日、**ホープ**（6195）がストップ高で上場来高値更新。20年6月期の単独業績で、売上高114億5700万円（前期比3・0倍）と急拡大を見込んだことがポジティブサプライズになった。自治体向け自主財源確保の支援サービスを本格的に拡大する構え。

Ubicom96％営業増益

週末9日、**Ubicomホールディングス**（3937）が急伸、年初来高値を更新した。20年3月期の第1四半期決算は、連結営業利益で1億6800万円（前年同期比95・5％増）と大幅な増益となった。フィリピンと日本で既存ピラー顧客からの受注が増加、大手コンピューターゲーム会社や大手商社など新規顧客増加が継続している。

ネクソン下落率トップ

9日、**ネクソン**（3659）は東証全市場で下落率トップ。19年12月第2四半期累計の連結決算は、営業利益655億8800万円（前年同期比7・3％減）とコンセンサスを下回り、直近3カ月は減益幅が広がった。

公開価格7％下回る

ステムリムの初値

9日、**ステムリム**（4599）が東証マザーズに新規上場、公開価格1000円を7・0％下回る930円で初値が生まれた。幹細胞を活性化し、損傷組織の再生を誘導する医薬品・医療機器と遺伝子治療等製品の研究、開発、製造、販売を行う。

転ばぬ先のテクニカル

次の変化日

先週の東京株式市場は対中制裁第四弾の影響で続落スタートとなり、日経平均は8月6日に一時2万0110円まで叩かれました。先週は下放れスタートとなったことで週足に窓が空きました。週足ローソク足は長い下髭を伴った十字足に近い足。7月相場では52週移動平均線に上値を抑えられ、前週の急落で13週移動平均線が26週移動平均線とのデッドクロスが示現。6月のザラ場安値を切ったことでトレンドは完全に下向きに転じました。

ただ、急ピッチの下落により、逆張りテクニカル指標が売られ過ぎシグナルを多数点灯したことで、週末にかけリバウンドを開始。次の変化日である8月23日に向けて2万1400円近辺への上昇期待です。NYダウの変化日が8月26日であり、2万6800ドル程度まで戻せばド転売りと考えております。

日々勇太朗

今週の動意銘柄

～決算情報～

英　和

社会インフラ向け伸びる

第１四半期は増収増益で着地

英和（９８５７）の２０年３月期の第１四半期（４～６月）決算は連結売上高で７６億５０００万円（前年同期比０．６％増）、営業利益１億８８００万円（同５．３％増）、純利益１億２９００万円（同７．５％増）と増収増益で着地した。

化学品製造業や電力会社向けの販売が減少したものの、官公庁や建設業向けで社会インフラ市場に使用される産業車両や各種機器に関する受注が堅調に推移したほか、鉄鋼製品製造業、舶用機器製造業向けで生産設備の安全対策にもつながる老朽化更新需要が好調に推移している。

通期は売上高３８０億円（前期比１．６％増）、営業利益１５億円（同２．０％増）、純利益１０億円（同６．３％増）と従来予想を据え置いている。

イートアンド

第1四半期22%営業増益

小籠包は計画超で既存店堅調

イートアンド（２８８２）の２０年３月期の第１四半期（４～６月）連結決算は売上高７１億５７００万円（前年同期比３．４％増）、営業利益２億２４００万円（同２２．０％増）、純利益は１億２３００万円（同４０．０％増）と大幅な増益となった。

食品事業では今年２月に販売を開始した「大阪王将 羽根つき焼き小籠包」は計画比を上回る販売数量となり、外食事業は大阪王将創業５０周年を迎えて創業当時のレシピを再現した「復刻創業餃子」の販売を開始、「５０年間餃子無料キャンペーン」などの販促効果で既存店は堅調だった。

通期は売上高３０４億円（前期比４．２％増）、営業利益９億１５００万円（同９．７％増）、純利益３億５５００万円（同５．６％増）と従来見通しを据え置いた。

立花エレテック

鉄鋼プラント受注が減少

第1四半期は31．3%営業減益

立花エレテック（８１５９）の２０年３月期の第１四半期（４～６月）決算は、連結売上高３７９億１６００万円（前年同期比８．１％減）、営業利益９億１０００万円（同３１．３％減）、純利益７億５０００万円（同３０．８％減）となった。

ＦＡ機器分野で単体のインバーター、ＡＣサーボや配電制御機器は堅調に推移したが、鉄鋼プラントの受注が減少し、国内子会社において情報系産業機器向けが大きく減少。半導体デバイス事業は、米中貿易摩擦の影響から海外子会社、特に中国、香港が苦戦している。

通期は２０年３月期は売上高１８３０億円（前期比０．１％増）、営業利益６７億２０００万円（同１．９％増）、純利益４８億６０００万円（同０．９％減）と従来予想を据え置いている。

ク ボ タ

2Q増収増益着地で増配

原料上昇を増収と値上げで吸収

クボタ（６３２６）の１９年１２月期第２四半期累計の連結決算は、売上高９７０８億２９００万円（前年同期比７．１％増）、営業利益１１０９億４７００万円（同９．７％増）、最終利益８１１億８９００万円（同１２．９％増）と増収増益で着地した。

国内は機械、水・環境、その他全部門で増収となり、海外ではトラクタや建設機械が大幅に伸長、固定費増や原材料価格上昇などコストアップを増収効果と値上げで吸収し、収益が拡大した。業績好調により、第２四半期末配当を１７円（前年同期１６円）へ増配を予定。

通期は売上高１兆９７００億円（前期比６．５％増）、営業利益２０００億円（同５．６％増）、最終利益１４５０億円（同４．６％増）と従来予想を据え置いた。

～決算情報～

グルメ杵屋

2桁営業増益で最終黒字

レストラン収益改善し機内食拡大

グルメ杵屋（９８５０）の２０年３月期第１四半期の連結決算は、売上高９９億１７００万円（前年同期比１．３％増）、営業利益１億１００万円（同１１．３％増）最終損益４９００万円の黒字（前年同期１２００万円の赤字）と増収、営業２ケタ増益で最終黒字に浮上した。

既存店の好調に加え、改装と店舗委託制度を進めたことで、主力レストラン事業の収益が改善、中国便の搭乗客増加に伴い、機内食事業が大幅増収で利益が急拡大した。新設した食品加工場の賃貸開始により不動産賃貸事業も増収増益となった。

通期は売上高４１１億９８００万円（前期比０．４％増）、営業利益９億７９００万円（同３４．６％増）、最終利益４億８１００万円（同４５．６％増）と期初予想を据え置いた。

大和ハウス工業

1Q13％増収23％営業増益

新中計に基づき持続的成長図る

大和ハウス工業（１９２５）の２０年３月期第１四半期の連結決算は、売上高１兆１７９億３６００万円（前年同期比１２．８％増）、営業利益９２３億９９００万円（同２２．７％増）、最終利益６５０億６８００万円（同２４．２％増）と２ケタ超の増収増益で着地した。

積極的な不動産開発投資により、商業施設や事業施設事が引き続き拡大、海外展開も順調に進んでおり、今期からスタートした新中期３カ年計画に基づき、事業領域の広さを生かした持続的な成長を図ったとしている。販管費比率が低下するなどコスト対策効果で収益性も向上した。

通期は売上高４兆２５００億円（前期比２．６％増）、営業利益３７８０億円（同１．６％増）、最終利益２５２０億円（同６．１％増）と期初予想を据え置いた。

イボキン

第2四半期減収も5割増益

産業廃棄物処理・再生資源急拡大

イボキン（５６９９）の１９年１２月期第２四半期累計の連結決算は、売上高３２億２００万円（前年同期比３．４％減）、営業利益２億３８００万円（同４９．２％増）、最終利益１億７０００万円（同５０．４％増）と減収ながら大幅増益で着地した。

主力の金属事業は鉄スクラップ価格の下落の影響で減収減益となったが、産業廃棄物処理受託と再生資源販売が販路拡大により２ケタ超の増収で利益が５倍強に急拡大、解体工事も大型案件が相次ぎ２ケタ増収で６割強の増益となり、全社収益を押し上げた。

通期は売上高６４億８７００万円（前期比０．３％増）、営業利益４億５００万円（同４４．４％増）、最終利益２億７５００万円（同２３．５％増）と従来見通しを据え置いた。期末一括配当は３０円（前期２７円）を予定。

六甲バター

原料価格上昇が利益圧迫

第2四半期は増収ながら減益着地

六甲バター（２２６６）の１９年１２月期の第２四半期累計（１～６月）決算は売上高２６１億９０００万円（前年同期比２．９％増）、営業利益１６億２２００万円（同２２．８％減）純利益１０億２７００万円（同２８．５％減）となった。

部門別ではチーズ部門が前年同期比２．４％増と好調に推移し、チョコレート部門は同１７．４％増と大幅な伸び、ナッツ部門も同３．１％増と堅調ながら、その一方で、人手不足による人件費の増加や物流費の高騰に加え、原材料価格の上昇が利益を圧迫しているようだ。。

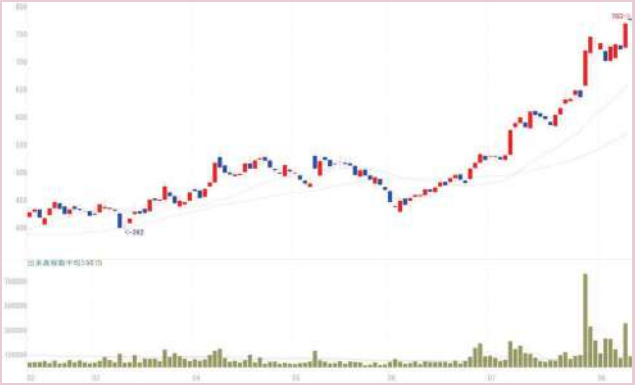
通期は売上高５５３億円（前期比５．０％増）、営業利益２４億６０００万円（同４３．６％減）、純利益１４億１０００万円（同５２．０％減）と従来予想を据え置いている。

チャートから読む騰落銘柄

マクドナルド（2702）

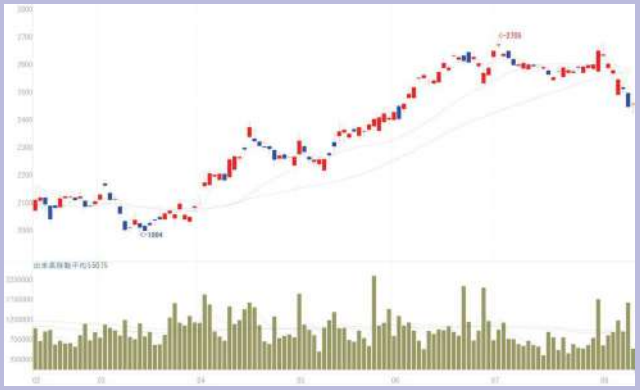
８月６日に４７６５円まで突っ込むも２５日や５０日線をすかさず回復し底堅さ見せており、５０００円台回復なら４月２日高値５２００円を目指す動きに期待。１Ｑ減益も想定内で未来型店舗に期待。

イントラスト（7191）



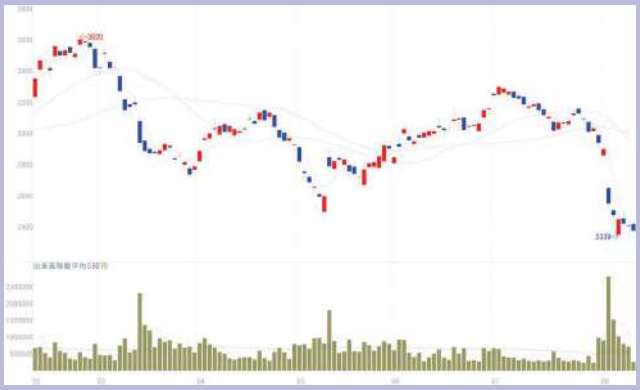
好決算発表受け急伸のあと、一呼吸入れて一段高へ。１Ｑ高進捗で収益上振れ期待強く、信用倍率０．８９倍の好取組みも株価押上げ要因。株式分割を考慮した最高値は１１１６円で、当面４ケタ回復を目指す。

ソニーFH（8279）



８月１日に２６７７円まで上昇した後は２５日や５０線をも割り込み下落基調続く。５月１４日の２２０６円までフシはなく、それを割り込むと２０００円割れから３月１３日の安値１９８４円が視野に入る。

古河電気工業（5801）



１Ｑ決算を嫌気、急落のあといったん下げ渋るが上値は重い。価格競争の激化と増産対応の遅れで、計画未達懸念が強く、押し目買いに積み上がった信用買い残も重荷。当面２０００近辺までの調整も。

※チャートは日足

潮流

増税より積極財政必要

MMTで日本経済を復活させろ！

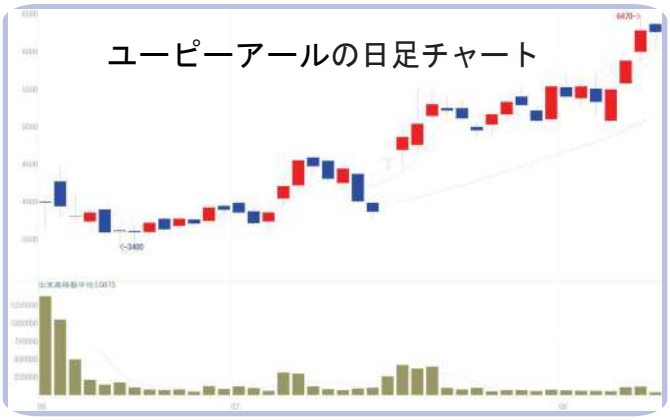
岡山 憲史氏（株式会社マーケットバンク 代表取締役）のプロフィール

１９９９年２月日本初の資産運用コンテスト「第一回Ｓ１グランプリ」にて約１万人の参加者の中から優勝。直近では２０１７年１月に始まった夕刊フジ主催の「株・１グランプリ」において優勝。１カ月間における３銘柄の合計パフォーマンスでは１５５％と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

現代貨幣理論（MMT）の提唱者であるニューヨーク州立大のステファニー・ケルトン教授が７月１６日に来日した。

来日講演では物価上昇を目指した金融緩和が続く日本の状況について「中央銀行の金融政策よりも、消費者の所得を向上させる財政政策の方がより直接的に機能する」と話した。消費者の支出こそが経済の牽引役であり、「財政政策で人々の所得と自信を向上させることが必要」だと述べた。ケルトン氏は経済成長のためのインフラ投資を例に挙げて、財源の有無を問題にするのではなく、労働力や生産設備などの需給状況によって、インフレが起きるかどうかを政策判断の基準にすべきだと話した。MMTは政府が財政赤字を「無限に増やせる」などとは説いていない。MMTに基づく政府の財政拡大の「限界」はインフレ率なのだ。逆に言えば「政府はインフレ率が健全な範囲に収まる限り、自国通貨で国債を発行し、需要を拡大しても一向に構わない。

日本は円建ての国債しか発行しておらず、自国通貨を持つ日本政府が財政破綻することはあり得ない。日本銀行は日銀当座預金を発行し、国債を買い取ることができる。そもそも日銀当座預金の発行は国債購入と等しい。日銀が買い取った瞬間、国債は返済や利払いが不要になる。その理由は日銀が政府の子会社であるためだ。２０１３年以降、日銀は国債を購入し、お金（日銀当座預金）を発行する（金額を増やす）量的緩和政策を継続している。



財政的な予算制約はない

既に日本政府の国債・財投債の４６％が日銀所有となっている。日銀が保有する国債・財投債については返済や利払いの必要はない。

日本政府が発行している国債は１００％日本円建てだ。日銀当座預金を借り入れ、子会社の日本銀行に保有されることで返済、利払いの必要性がなくなるため、日本政府の財政破綻はゼロである。MMTは財政赤字や国債発行が金利を上昇させるという理論を全否定する。そもそも政府が国債を発行し、借り入れるのは日銀当座預金だ。政府は財政的な予算制約に直面することはない。今必要なのは消費増税といった緊縮財政ではなく、積極財政なのだ。政府だけでなく国民もMMTという正しい経済学を学び、日本を復活させよう。

潮流銘柄は**ブシロード**（７８０３）、**ユーピーアール**（７０６５）、**Ｓａｎｓａｎ**（４４４３）。

高野恭壽の株式情報 これでどゃ!!

株式市場新聞の名物コーナーが復活！

高野恭壽（たかのやすひさ）**氏**　1949年生まれ、大阪府出身。株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家として独立。講演会のほか、ラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめＴＶ、ラジオに多数出演。「株式投資30カ条」など著書も執筆。

２万１０００円回復期待

トランプ大統領のツイートに端を発した７月３１日からの急落も、ようやく沈静化してきました。

トランプ米大統領は制裁関税の対象となっていない中国からの輸入品３０００億ドル（約３２兆２３００億円）相当に１０％の関税を課すと発表したことで、米中の対立激化が懸念されていましたが、９月のワシントンでの米中貿易閣僚協議は依然開催される予定であることで過度なリスクは後退しました。７日のニューヨーク市場ではダウが一時５９０ドル近くも暴落してスタートしましたが、その後は戻す動きとなり、２万６０００ドル以下では下値を拾う動きが活発化しています。

一方、東京市場は日経平均が２万円割れを回避したものの、戻りも鈍いのですが、個別で見ると急落相場でもしっかりしていたＮＥＣや第一三共が高値を更新する動きとなり、富士通やアサヒが下げ止まり、半導体系の東京エレ、ＳＵＭＣＯなども盛り返しており、物色意欲が高まっています。ＳＱを通過したことで目先的には今回、波乱の一因になっていた先物に絡む仕掛け的な動きも一旦は沈静化してきます。３連休明け後はお盆休みで国内の投資家の動きも鈍る可能性はありますが、日経平均は２万８００円抜けから２万１０００円台回復を窺う動きを予想しています。

大塚ＨＤと日新薬さらに上値

前回も紹介銘柄しました**大塚ホールディングス**（４５７８）がようやく底打ちの動きになりました。１９年１２月期については第２四半期累計（１～６月）売上高で６６５０億円から６７００億円（前期比８・４％増）へ、営業利益で７８０億円から９６０億円（同２２・２％増）へ上方修正しています。４０００円台固めから上値を目指す動きを期待しています。同じく一貫推奨の**日本新薬**（４５１６）も８０００円前後のもみあいを一気に抜けて８５００円台まで上げました。これで９０００円台、更には１万円に向かうものとみています。

これらに加え今回の狙いは**五洋建設**（１８９３）と**大陽日酸**（４９１）です。

高野恭壽公式ホームページ
高野恭壽の株式市情報これでどゃ！！
https://marketpress.jp/kabu-takano/
毎日情報を配信中！

星野三太郎の株街往来

～ツイッター相場～

7月はFRBの利下げがほぼ想定通り実施され、目先的な大きなイベント通過から8月は平穏な相場展開を期待していたが、またもやトランプ大統領によるツイートで大暴落でのスタートとなった。

ひと昔前なら日経平均で500円超の下落となると、どこかの金融機関が危ないとか何らかの予兆があったが、最近はツイートで簡単に相場が急変するから、突然の急落にも以前ほど驚かなくなった。そんな「ツイッター相場」の時代になって株式投資をやめてしまった友人は「保有株が無かったら冷静に相場を見れる」と語っていたが、おそらくその友人のように嫌気がさした個人投資家が増えたことがこの数カ月の閑散相場に繋がっているんだと思う。

最近では某報道番組のスポーツコーナーに出演していた野球評論家の発言に対して渡米したメジャー選手がツイッターで猛反論したことが話題になっていた。そこまで反動するなら直接議論すべきだし、それ以前にツイートする暇があったら、その時間を練習時間に割いてくれと思う。政治家だって安易にツイートするより、会見などを開いて自ら発言すべき。あらゆるモラルの無さを嘆いているが、それが常識化するのが恐ろしい。

New product

クボタ　最大馬力帯製品を追加

北米の大型トラクタ事業拡大

M8シリーズ

クボタ（6326）は、同社最大クラスの高馬力帯のトラクタをラインナップに追加し、北米の大型トラクタ市場での事業展開を加速させる。

このトラクタは、2015年に販売開始したM7シリーズ（130～170馬力）の特長を引き継ぎながら、さらなる高馬力で作業の幅を広げ、より多くのユーザーニーズに応えることができる。カスタムOEM相手として新たに戦略的パートナーシップを結んだBuhler Industries Inc.社（カナダ、ビューラー社）に開発・製造を委託し事業運営を進めていく方針で、2019年末に量産開始し、2020年春に北米で販売開始予定。

企業レター

大阪府と「包括連携協定」

キリン堂HD

セミナー講師派遣など取組広げる

大阪府との包括連携協定式

キリン堂ホールディングス（3194）の中核子会社であるキリン堂は、大阪府と「包括連携協定」を締結した。これまでも、大阪府との連携で健康チェックのイベントの開催や啓蒙活動など、健康に関する取り組みを行ってきており、今回の協定では健康以外にも分野を広げ、連携・協働する。

具体的には府民の健康づくりに関する取組みを推進。キリン堂がこれまで取り組んできた「バランスのよい食事」や「からだを動かすこと」など「未病対策」のノウハウと、地域に根差した店舗づくりで培った地域とのつながりを活かし、市町村が主催する健康セミナーへ講師を派遣するなど、府内市町村における府民の健康づくりに協力。キリン堂の販促物や主催イベントのPOPに「健活10」や「アスマイル」のロゴマークも掲載する。

敏腕先物ディーラー

ハチロクの裏話

SQ値越えてくるか？

再び下値を探る可能性も

先週の日経平均は米中貿易戦争の激化や日韓関係の悪化により大きく動いた。6日には日経先物が一時2万円台を割れたが、現物は2万1107円76銭の安値を付けた後、急激に値は回復した。

5月から揉み合い相場だったため、買えてない投資家が2万円割れに近付くと買いを出してきたようだ。一旦は2万円台を死守した形であるが、取り巻く相場環境は好転したわけでもなく、戻りを試した後は再び下値を探る展開も想定されよう。

チャート的には7月25日の高値（2万1823円07銭）から8月6日の安値（2万1107円76銭）の下落幅（1712円31銭）の半値戻りは2万96円である。この水準は一目均衡表の転換線（2万951円）とも重なり戻りの達成感が出やすい水準である。また、下落過程で3つの窓を空けており、一つ目の窓埋めが2万960円09銭であるため、やはりこの水準が一つの戻りメドとなろう。明確にこの水準を抜けてきたら2つ目の窓（2万1288円）を埋める展開も期待できよう。

一方、下値は2万400円処で止まるかどうか、7日の安値2万406円52銭を下回ってくると、再び2番底探しの展開になりかねないので注意は必要である。8月のSQ値は2万8559円09銭で決まったが執筆時では「幻のSQ値」となっている。今週前半でSQ値を回復できないと再び下値を探る展開となろう。

（ハチロク）

日経225先物日足チャート

当面のスケジュール

- 12日　米7月生産者物価(21:30)
- 13日　7月国内企業物価指数(8:50)
  6月第三次産業活動指数(13:20)
  独8月ZWE景況感指数(18:00)
  米7月消費者物価指数(21:30)
- 14日　6月機械受注(8:50)
  中国7月都市部固定資産投資、中国7月工業生産、中国7月小売売上高(11:00)
  ユーロ圏4-6月期GDP(18:00)
  独-6月期GDP(15:00)
- 15日　米8月NY連銀製造業景気指数、米8月フィラデルフィア連銀製造業景況感指数(21:30)
  米7月小売売上高(21:30)
  米7月鉱工業生産・設備稼働率(21:15)
- 16日　米7月住宅着工件数(21:30)
  米8月ミシガン大学消費者マインド指数(23:00)

編集後記

庭の草むしりをしていて蜂に刺された。幸いスズメバチより小さいアシナガバチの一種で大事には至らなかったが、手が腫れ上がって指が動かしづらく、仕事に支障をきたす始末。蜂の巣は水に弱く、長雨が続いた今年は住宅の軒下など雨をしのげる場所に巣をつくるケースが多いという。すでに殺虫剤で駆除して2つの巣を取り除いていたが、まさか地面すれすれの植木鉢の棚の下に巣が残っているとは思わなかった。

過度の警戒感が和らいだ東京市場だが、引き続き注意は怠れない。

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測の的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被られたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。